

通貨分散の目的と 効果を再確認しよう

本稿では、なぜ通貨分散を行う必要があるのかを確認したうえで、通貨分散・投資対象の分散の効果について、過去のデータを基に見ていく。

スキラー・ジャパン株式会社
CFP®

伊藤 亮太

なぜ 通貨分散が 必要なのか

1

ドル/円を中心に、円安傾向が持続している。この大きな理由には、米国の利上げ予想が大きく影響しているためといえる。しかしそれだけではなく、米国の経済の正常化と原油高なども反映する日本の物価上昇を背景に、今後も円安傾向は続くと思定する投資家は多い。

そこで資産運用上、検討しているのが通貨分散である。といっても、ただ通貨を分散すればよいといった単純な話ではない。通貨分散を行うとともに、海外株式や海外債券、日本株式や日本債券といった資産も分けて運用を行うべきであろう。

通貨分散を行う大きな理由は主に2つあるといえる。ひとつは、収益機会が増えることであ

る。日本円だけの保有では、円預金、日本債券、日本株式など国内の金融資産が主となる。一方、通貨分散を行うことは日本以外の国にも目を向けることと同じ。つまり、多種多様な商品から魅力ある収益機会を捉えることも可能といえる。収益拡大機会の可能性が広がるわけだ。

自身の資産を守るためにも 他国通貨への投資は必要

もうひとつの大きな理由は、リスクヘッジという観点である。外貨投資自体がリスクがあるといえはそうであるが、日本円だけで資産を持つというのもリスクがあると表現できる。外国為替市場における取引高の通貨別シェアにおいて日本円は1割程度であり、4割以上は米ドルの取引高である。次に多いのがユーロであり、その次に日本円が該当する。

このような状況において、日本円だけで資産を保有すること

は世界の1割の通貨の中で投資を行うことになる。円安傾向である今だからこそ、他通貨への分散投資を行い、資産を増やす。守る戦略を採るべきであろう。そうしなければ、円安での恩恵は受けられないばかりか、むしろ円安↓物価高↓家計へのマイナスへの影響というダメージを受けることになる。

大きく増やすまでは考えないとしても、金利が相対的に高い他国通貨への投資は、自身の資産を守るため、減らさないようにするために有効ではないだろうか。こうした理由から、今後通貨分散は重要視すべきと考ええる。

グラフで見る 通貨分散・ 国際分散投資の効果

2

ここで、通貨分散や国際分散